

戦国武将 馬場美濃守信房

静岡大学名誉教授・文学博士
武田氏研究会会長
小和田 哲男

はじめに

1. 肖像画に描かれた馬場信房



大阪城天守閣所蔵「武田二十四将図」



信玄公宝物館所蔵「馬場信春像」



大阪城天守閣所蔵「長篠合戦図屏風」



山梨県立博物館所蔵「天目山版 武田二十四将図」

2. 武田二十四将の中の「武田のおとな四人」

武田二十四将とは

「武田のおとな四人」

馬場信房・山県昌景・内藤昌秀・春日虎綱

諱（名乗り） 信房・信春・氏勝

3. 教来石民部から馬場美濃守へ

永正 11 年（1514）武川衆の教来石信保の子として生まれる

「信保が長男を美濃守信房^{はじめ民部氏勝}とし、武田家の老臣馬場伊豆守虎貞の家名を継」
（『寛政重修諸家譜』巻第 184）

馬場家を継いだのはいつか

天文 15 年説 信濃砥石城攻め後

天文 17 年説 信濃上田原の戦い後

原虎胤と信濃深志城を守る

天文 19 年（1550）

受領名 美濃守を称す

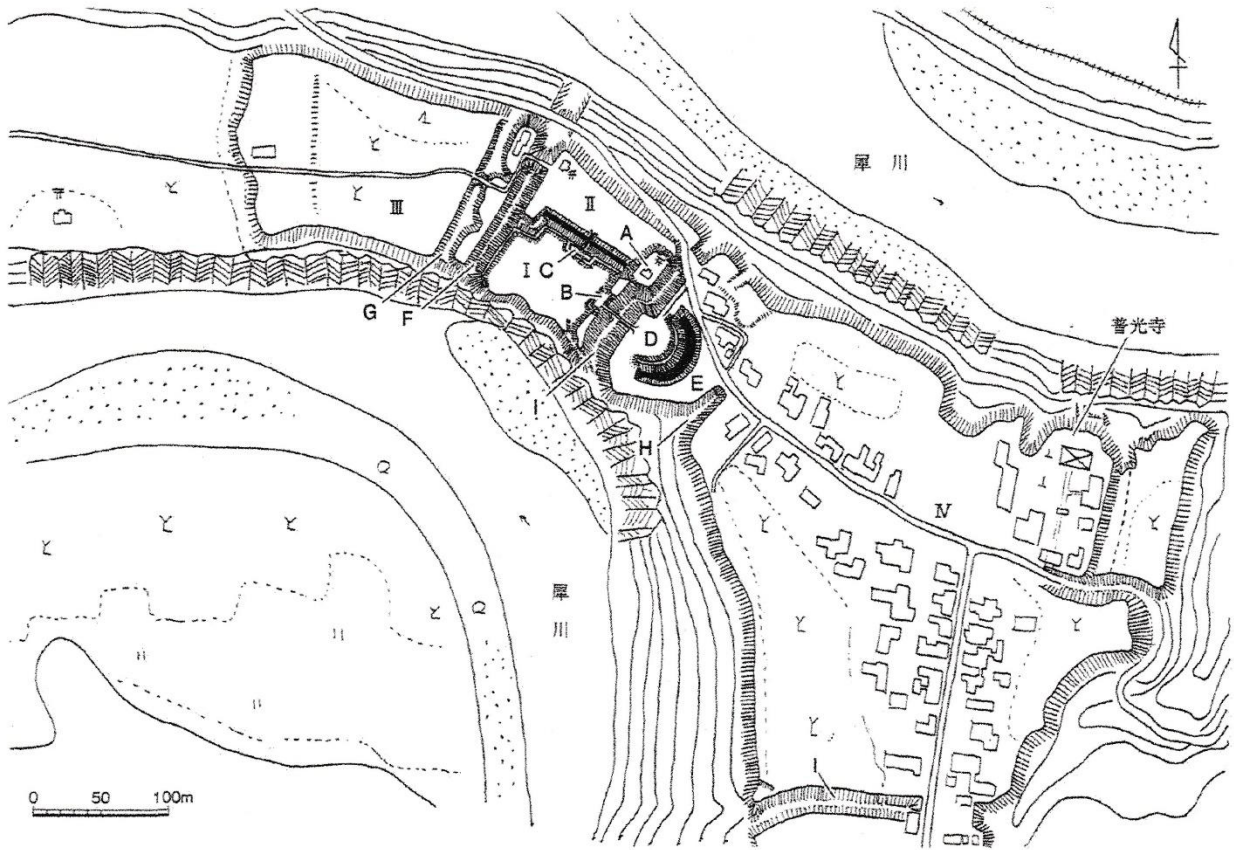
永禄 2 年（1559）以前

信濃牧之島城を築き移る

永禄 5 年（1562）説 『千曲之真砂』

永禄 9 年（1566）説 『甲斐国志』

○六七二 武田信玄判物〔知行宛行〕
（武田信玄）
（花押）
雖為少地、任先約、中山屋地五貫文、^{（更埴市）}
五貫文之所置候、猶馬場美濃守可申候、恐々謹言、
追而、右之地山共出置者也、
永禄二年己未
九月二十九日
中牧伊勢守殿
○長野県鬼無里
村・中牧家文書



牧之島城跡概要図（作図：三島正之）『長野の山城ベスト 50 を歩く』

4. 山本勘助流築城術を継承した馬場信房

山本勘助流＝武田流築城術とは

丸馬出の手法

諏訪原城・江尻城・田中城など

山本勘助から馬場信房へ

信玄にも諫言ができた馬場信房

「信玄駿河に攻入る時、朝比奈兵衛を始として軍する者なく、今川氏真落ちられしかば、信玄とく今川の館に行きて、名物の宝ものども奪とり来れと下知せらる。馬場美濃守氏房間もあへず唯一騎鞭に鎧を合せて館にかけ入り、火をかけて焼きはらひけり。是宝物ども奪ひとりて貧慾の師なりと嘲れん事を慮りたるなるべし」（『常山紀談』）

晴信公仰らるゝ、「城にこもりてよき事ハ、せむるものゝために、むつかしき儀也。せめてむつかしく、こもりてよき事、きわめてひとかどなるとくありや」と尋給ふ。勘助申上る、「馬だしと申ものハ、城どりのまなにて御座候。しきひハ、城をまかれ候て、城内よりそないをいだすに、あぶなげもなく、また、せめてになり申てとりよせにくゝ候。惣別、城どりのさほうを能とりたる城にハ、千こもる人数を五百にてもむつかしく、あしくとりたる城にハ、人数五百こもる所に千五百こめたまいても、其人数用になゞずして、大きなるそんにて候」と申上る。

そこにて晴信公、きやうらいし民部をめして、是をきかせ被成^{（なざる）}。此民部、のちハ馬場美濃守と申候。

5. 長篠・設楽原の戦いで討ち死にする馬場信房

武田信玄の死と勝頼への相続

長篠・設楽原の戦い 天正3年(1575)5月

戦いの流れ

	信 長 ・ 家 康	勝 頼
5月11日		長篠城を包囲
15日	信長と家康、岡崎城で軍評定	
18日	信長は極楽寺、家康は高松山に着陣。夜、連子川沿いに柵を作る	
19日		軍評定を開く
20日	夜、酒井忠次・金森長近ら鳶ヶ巣山に向う	長篠城包囲を解き、軍勢を移動。清井田付近に進出
21日	早朝、設楽ヶ原に布陣	寒狭川を渡り、設楽ヶ原に布陣 山県隊、大久保隊に攻撃開始
両軍戦闘		勝頼軍敗走 馬場信房・山県昌景・原昌胤・甘利信康・土屋直規ら戦死



小和田哲男著『戦国合戦事典』

信房は殿を務めて討ち死に

おわりに